

2023年(令和5年)

第49号

(5月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～自分を思いやる～ 亀岡支部組長 石川裕加

今月は、亀岡支部の石川が担当させていただきます。よろしくお願い致します。

お役を頂き、原稿を考えている最中の4月21日の朝、舞鶴の実家の父が91歳で亡くなりました。原稿の事を思いながら、様々な手続きに動き回っている時、父は私たち家族と別れる時は必ず(孫の祐大には握手をして)、「みんなと仲良く元気でね」と言ってくれていた事を思い出しました。そして、会長先生が書初め・御親教で「元気」について、ご指導下さっている事が、この父の言葉と一致して、大変有り難くなりました。

父は入院生活中、看護師さんが処置を下される都度、合掌し「ありがとう」と感謝を伝えていたり、忙しい様子を心配して、「お昼ご飯は食べた？ちゃんと食べておいで」と声をかけていたそうです。近況報告して下さっていた看護師さんは、父のことを「いつも優しく、感謝してもらって、こちらが有り難いんです」と、話して下さいました。

このお話のおかげさまで、私は父が入院生活中も精一杯の“即是道場”で、感謝と人さまへの思いやりを実践していたことを教えて頂き、改めて、父のことを尊敬し誇りに思うことができました。そして、この父の行いが、自身の心の救われになり、「元気」であったのだと気づき、喜びいっぱいになりました。

「元気」の私のイメージは、若者・活動的といった限定的なものでしたが、ご法話のおかげさまで老若男

女の誰もが、いつでも、どこでも「元気」になれることを教えて頂きました。

また、私もコロナ感染症がⅡ類からⅤ類に移行される事で社会生活が変化し、少しずつ以前のように動けることが光りになります。お手取りに向かう時、「どうされているかな?」「生活に変化はあったかな?」「一緒に法座所参拝できるといいな」と、色んな思いを持ちながらお会いすると、笑顔で迎えて下さる会員さんから、私が「元気」を頂いて歩めます。皆さま、日々本当にありがとうございます。

そして職場では、新婚の友人が「新居は申し分ないんですけど、色々あって。また話を聞いて下さいね」と声をかけてくれました。お話をし、共に「元気」になれるのが楽しみです。

ご法話で教えて頂いたように、「自分を思いやる」ことで、ご縁によって一瞬一瞬目まぐるしく変化する私の気持ちを正見し、凸凹して、いびつになった心のみ教えによって、まあるく整え心の調和を保つ。今日の悲しみも、深い感謝も、涙も笑顔も味わいながら、私の中のやさしさを育てたいと思います。

最後になりましたが、父は私が嫁ぐ時に「このみ教え、法華三部経は間違いない。信じて、これを持って生きなさい」と言葉をくれました。半世紀余り、教えを真っすぐに信じて行じて精進させて頂けたからこそ、今の父の姿をしっかりと心にとめて、感謝でご法精進してまいります。ありがとうございました。

あなたのお仕事を教えて下さい ～乙訓支部 清水道弘さん～

Q：仕事先はどちらですか。

A：社会福祉法人 海印寺徳寿会 竹の里ホーム

Q：なぜ今のお仕事に就かれたか。

A：日立系列の会社でSEをしていましたが能力の限界を感じ、自宅近くに新規オープンする老人ホームへ29歳で転職しました。

Q：どのような仕事内容ですか。

A：経理や総務関連、その他諸々の業務を担当しています。経理では、予算策定、予実算管理、購買、

財務管理、介護保険のレセプト業務。総務では社会保険手続き(社労士資格取得済)。その他諸々は、設備機器や備品の修繕や車両のタイヤ交換、パソコン関連の設定など他職種の範疇でないものを携わっています。

Q：仕事中心に心掛けていることがあれば教えて下さい。

A：老人ホームは定員がありますので収入には限界があります。いかに経費を抑えるか？プロフィットセンターである事を日々意識しています。

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/>